

さがみはら 広報

NO.1473
毎月
1日・15日発行
1/15
2022
令和4年
SAGAMIHARA

LINE-UP 今号の主な内容

- 新型コロナウイルスワクチン接種に関するお知らせ…………… 3
- 市の職員として働いてみませんか…………… 4
- みんなのすこやかナビ…………… 6・7
- 一般廃棄物最終処分場を見学しませんか…………… 12

発行●相模原市 〒252-5277 相模原市中央区中央2丁目11番15号
編集●広聴広報課 ☎042-769-8200
ホームページ●<https://www.city.sagamihara.kanagawa.jp/>
携帯端末用●<https://mobile.city.sagamihara.kanagawa.jp/>

市の手続き、イベントや施設のお問い合わせに…

相模原市コールセンター
午前8時～午後9時 年中無休
☎042-770-7777



人との交流も学ぶのも
楽しいね

感染拡大防止の徹底を

ワクチン接種に関する予約・相談 新型コロナウイルスワクチン接種コールセンター

☎050-5445-4357 ☎050-5445-4358 (午前8時30分～午後8時)
☎050-5445-9837 ☎050-5445-9838 (土・日曜日は午後7時まで)

発熱・のどの痛みや感染の心配があるときはかかりつけ医へ
かかりつけ医がないなどの場合

市新型コロナウイルス感染症相談センター
☎042-769-9237 (24時間)

障害により電話での相談が難しい場合は、FAX042-752-5515へ

生活などでお困りの時

新型コロナ暮らし・経済支援ダイヤル
☎042-851-3193

(午前8時30分～午後5時(土・日曜日、祝日等を除く))

相模原から
発信!

「共に生き、学べる社会」づくり

国の調査では、障害のある人が学校を卒業した後、交流や学びを続けられる場が少ないという結果が出ています。そこで、本市では、相模女子大学と連携してインクルーシブ・プログラム開発事業に取り組み、全ての人が交流したり学び続けたりするにはどうしたらよいかを考えています。

インクルーシブ・プログラム開発事業とは

発達障害や知的障害のある若者が生涯を通じて学び、余暇を楽しむことができる環境はどうしたら作れるのかを研究する取り組み

インクルーシブとは

全てを含むという言葉で、さまざまな特性を持つ人たちが共に過ごすことを意味しています。

市と地域貢献に力を入れている相模女子大学が
発達障害のある人と一緒に研究

オンライン開催で心理学
や哲学など大学の専門講
義を受講しました。

講義中心

セミナー

興味・関心に合う講義を通
して、他者との交流をする



フィールドワーク型

リサーチ

参加者自らが、興味・
関心のある事柄につ
いての調査をする



障害のある人もない人も一緒に交流や学び
を続けられる仕組みづくりを調べるため、
11月に、先進的な取り組みをしている神戸
大学で「障害のある人が学びたくなる大学つ
てどんな大学？」をリサーチ!

3つの柱で
実践!

グループワーク主体

ゼミ

大学のゼミと連動し
たグループへ参加し、
交流をする



参加者同士で日常の悩みを相談すること
で、自分自身やお互いの理解が深まり、
交流も円滑・活発になりました。

詳しくは 2面へ



「共に生き、学べる社会」 に必要なこと

インクルーシブ・プログラムの参加者と相模女子大学の学生・教員に話を聞きました。皆さんも「誰もが共に生きることができる社会」とは何かを考えてみませんか。

☎市発達障害支援センター ☎042-756-8411

プログラム参加者に聞きました!



相模女子大学3年生
下斗米若菜さん

当たり前だと思うので「共に生きる」とわざわざ言わなきゃいけないことがおかしい。これまでは、発達障害の人と関わる機会がなかったから、どこかで見掛けてもどうしたらよいか分からなかった。このプログラムは、関わる良い機会、良い取り組みだと思う。

障害があるから「あの人にはできない」と言われ、希望していない選択肢を与えられてきた。しかし、障害のある人でもチャレンジしたい気持ちや、可能性の幅を広げて行きたいと前向きな気持ちを持っていることを分かってほしい。



プログラム参加者
岩本健吾さん



社会人になると学校で学んだことのアウトプットばかり。社会人だって学ぶことは大切。障害を理由に嫌な思いをしたこともあるけど、こういうプログラムは障害に対する理解が深まると思う。差別をする人が少しでも少なくなるといいな。



プログラム参加者
今藤孝拓さん



相模女子大学3年生
千早佳音さん

「障害がある」ってなんだろう…個人の特性として認められるべきだと思う。対等でありたいと思うし、友達でも障害のある人でも「これ苦手なんだよね」と言ったら助けたいと思う。その気持ちは何も変わらない。

大学で障害のある人の学びを考えるなら、学生と障害のある人に話を聞くべきだと思う。両者が協力して活動できる場を作ること意識した。お互いに理解が深まっていく姿を見られてうれしかった。誰かが肯定してくれると、どんどん自分のことを出せる。出したらみんなが受け止めてくれる。そういう環境づくりがとても大切。「障害」の多くは社会に問題があると感じている。「障害のある人」ではなく「〇〇さん」と出会い、「一緒に過ごし楽しむ」が大事なこと。「人と人が関わって、楽しい」の延長に、共生社会があるのではないかなと思う。



相模女子大学准教授
狩野晴子さん

「インクルーシブはイノベーション(新しい発見)」と皆さんから教わった。さまざまな特性がある仲間が共に関わり合うことで、新しい発見がたくさん生まれた。共に生き、学べる社会を、相模原から始めていきたい。



市発達障害
支援センター
小林太郎 主任

学生たちの取り組みや声をもっと知りたい人はこちら!

オンライン インクルーシブ・プログラム開発事業報告会



市職員やプログラム参加者、教員などの実施報告のほか、神戸大学教授の津田英二さんによる講演
 時 2月12日(土) 午後1時～4時
 ※ツールはZoom®を使用
 定 250人(申込順)
 申 2月4日までに相模女子大学ホームページから
 問 相模女子大学生涯学修支援課
 ☎042-747-9047

9面に
セミナーの
情報あり



発達障害を知ることから始めませんか?

聞いて知る

① 講座「ライフスキルの獲得度と就労との関係性の実践」

学齢期のうちに身に付けておきたいライフスキルと将来の就労との関わりについて、就労支援の担当者などを交えて学ぶ
 時 2月8日(火) 午前10時～正午
 会 陽光園
 対 発達障害やその疑いのある小・中学生の保護者・家族

② オンライン講演会 医師による発達障害における思春期の対応方法について～二次障害を中心に考える～

思春期に生じ始める「二次障害の芽生え」のを見つけ方や、その対応方法を、最新情報を交えて講演
 時 2月19日(土) 午前10時～正午
 ※ツールはWebexを使用
 講 神谷俊介さん(北里大学病院児童精神科医) ほか

③ オンライン 発達障害連続セミナー

困ったことを人に相談できるようにする方法、成人期の充実した毎日を過ごすための方法など
 時 2月19日(土)、3月12日(土) 午後1時30分～3時30分
 ※ツールはZoom®を使用
 講 梅永雄二さん(早稲田大学教授) ほか

定 ①20人②100人③各250人(申込順)
 申 2月①2日②17日③14日までに、市ホームページから

①②について
詳しくはこちら



本で知る

④ 発達障害に関する本の紹介

掲示コーナーもあり
 時 3月1日(火)～4月8日(金)
 会 市立図書館(中央区鹿沼台)、橋本図書館、相模大野図書館

映像で知る

青色は自閉症のシンボルカラー

⑤ ライトアップ動画を相模原チャンネルで配信

さがみ湖リゾートプレジャーフォレストで、青色にライトアップをした様子を動画で配信
 時 3月9日(水) から

作品募集中! 詳しくは市ホームページをご覧ください。

⑥ 青を集めよう(写真展)

青色にちなんだ撮影した写真の作品展を開催します。一足先に応募写真の動画を相模原チャンネルで配信
 展示 時 3月28日(月)～4月8日(金) 予定
 会 市役所本庁舎
 動画配信 時 3月9日(水) から



☎①②=陽光園 ☎042-756-8410 ③～⑥=市発達障害支援センター ☎042-756-8411

③～⑥や発達障害啓発週間について詳しくはこちら